

南アフリカ

～伊万里焼とケープタウン～

在南アフリカ日本国大使館

ケープタウンと日本の繋がりには江戸時代に遡ります。

鎖国期に江戸幕府が貿易を許していた国の1つのオランダは、現在の南アフリカの大部分を「ケープ植民地」として統治していました。

当時のケープ植民地は長い航海における補給地として栄え、自然と世界の交易品が集積する場所となっていました。

当時ヨーロッパでは陶磁器製法が発見されておらず、日本からは大量の「伊万里焼」がオランダ船等により国外へ輸出され、中継地であるケープタウンにもかなりの数が卸されたことがわかっています。

実際に17～18世紀前後の伊万里焼がケープタウン市内で多く見つけられ、いくつかはケープキャッスルの William Fehr Collection に現在も展示されています。

南アフリカのアンティークショップなどへ行くと稀に日本のものらしき焼物を見つけることができます。もっとも、現代に作られた大量生産品が殆どですが、もしかすると本物の古伊万里に出会える可能性もあるかもしれません。

(了)